

## 高橋悟志組が土壇場の逆転劇でシーズン初優勝



スィフトターボ勢が速さを見せた今回。FFマイスターの高橋悟志／箕作裕子組が今季初優勝を飾った。

**2**018年の全日本ラリー選手権も、11月第1週に行われたお馴染みの新城ラリーでシリーズ最終戦を迎えた。

今回の新城ラリーの特長は、「雁峰」、「長篠設楽原」といったツイスティな名物ステージが日曜のLEG2に設定されたこと。土曜のLEG1は「ほうらいせんー念不動」、「鬼久保」といったこちらもお馴染みのステージに、今回はNEWステージ「くらがり渓谷」が加わった。

このステージは基本的にはツイスティだが、雁峰ほど狭くはない。ただその名が示す通り、

昼間でも陽が届かない箇所も多く、路面の見極めは一筋縄ではいかないステージだ。超高速ステージの鬼久保は2日間とも設定されたが、LEG2は距離が短くなっている。新城総合公園のショートSSはLEG1で2本、LEG2で1本設定された。

チャンピオンを賭けた最終戦決戦が持ち込まれたのはJN4、JN2の2クラスだ。JN4クラスはグラベルラリーでポイントを稼いだ上原淳／漆戸あゆみ組シビックタイプRユーロ、ラリー北海道は欠場したものの前戦ハイランドマ

スターズで2位に入った山本悠太／小林剛組86、そのラリー北海道で満身創痍のスィフトターボをゴールまで運び込んでポイントを上積みした関根正人／草加浩平組の3台にチャンピオンの可能性が残されていた。

この3台を尻目にSS1ほうらいせんのベストを奪ったのは西川慎太郎／本橋貴司組。注目のSS2くらがり渓谷では高橋悟志／箕作裕子組がベストを獲り、スィフトターボ勢が速さを見せる。しかし2ループ目に入ると86勢が盛り返し、SS6ほうらいせんは山口清司／山本磨

美組がぶっちぎり、SS7くらがり山本組がベスト。山本組は鬼久保2本を制したことも効いて、高橋組を9.5秒抑えてトップで折り返した。

山本組はLEG2に入っても最初のSS9で高橋組を



今回も多くのギャラリーが訪れ、盛り上がりを見せた新城ラリー。セレモニアルスタートでは復帰した勝田範彦選手のWRXにひと際、大きな歓声が上がった(1)。スーパーGTで活躍中のヘイキ・コバヤシ選手も全日本ラリーにカムバック(2)。新城総合公園ではユホ・ハンニネン選手のドライブにより、ヤリスWRCのデモンも行われた(3)。



JN6 / 4. LEG1は2位で上がった奴田原文雄／佐藤忠宜組だったが、長篠・雁峰で勝田組に逆転を許し、3位でゴール。5. 2戦ぶり復帰だった勝田範彦／石田裕一組はLEG2でDAYベストを奪って完全復活を示すも、LEG1の遅れが響き、2位に終わった。6. 前戦ハイランドマスターズでチャンプ確定の新井敏弘／田中直哉組が、LEG1で染いたリードを守って有終の美を飾った。2018年は10戦中6勝をあげる王者にふさわしい成績を残した。



JN5 / 7.8. 川名賢／保井隆宏組がラリー北海道から3連勝を決めた。「LEG2は特に路面が難しかったので最後まで気が抜けなかった。リードしていたけど、眞貝選手のタイムを意識しながら抜かれないようにプッシュし続けました。セットアップは少しずつよくなってきてますが、まだ詰めたいことがあるので、また乗らせてもらう機会があれば来年も乗りたいですね」と川名選手。9. LEG2は川名組と互角の戦いを見せた眞貝知志／安藤裕一組は2位でフィニッシュ。10. タイトル確定済みの小濱勇希／馬場雄一組は3位完走で最終戦をゴール。



JN4 / 11. 3年半ぶりの勝利でシャンパンファイトに興じる高橋悟志選手。12. 山本悠太／小林剛組は0.4秒差の2位に逆した。13. 「平塚(忠博)さんのアドバイスに従って走りを変えたらタイムがグンと上がりました」。LEG2でDAYベストを奪った西川慎太郎／本橋貴司組は前日の5番手から3番手にジャンプアップ。

10秒下すベストをマークし、1ループ目を終えて十分なリードを築いたかに見えた。しかし2ループ目に入ると高橋組はまず雁峰で山本組に10秒差をつけるセカンドベストで詰め寄る。続く長篠設楽原は途中から雨が降り出す難コンディションとなるが、高橋組はここでもきっちり11秒、山本組を下して僅か2本で逆転に成

功した。

勝負は最終SS鬼久保に持ち込まれ、このステージを得意とする山本組が高橋組を3秒差で下す圧巻の走りを見せるが、最終結果では僅か0.4秒及ばず。高橋組がスイフトターボでの初優勝を飾った。

「今日は1ループめがクルマの動きがよくなったので、途中からダンパーをソフト方向に振ったことが2ループめのタイムに繋がりました。長篠は雨が途中から降ってきて難しかったですけど、タイヤが暖まった後だったのでグリップ感もありました。でも長篠はクルマ的にもイケると思ったので勝負どころでタイムが出せて良かったです」と高橋選手。3年半ぶりとなる勝利の味をかみ締めていた。

山本組から21.3秒差の4位で折

り返した関根組は、LEG2の2ループ目の雁峰、長篠での連続サードベストによりLEG2は山本組を凌いで3番手タイムをマーク。結果は4位に終わったものの、この貴重なDAYポイント1点が効いて有効得点で山本組を逆転。関根選手は初の全日本チャンピオンに、草加選手は実に27年ぶりとなるチャンピオンに輝いた。

「長篠の2本めは雨が降ってきたけどドライと同じようにプッシュした。最後まであきらめずに走ったことが報われました」と関根選手。0.7ポイントの有効得点差でタイトルを逸した山本選手は「長篠はミスはしてないのなぜタイムが出なかったのか分からないんですよ。抑えたつもりはないんだけど、結果的には雨でマージンを取りすぎたのかな」と悔しさを滲ませていた。

一方、タイトルレースが持ち込まれたもうひとつのクラス、JN2は予想通り、前戦ハイラン



LEG2の激走がDAYポイント獲得に繋がった関根正人／草加浩平組は逆転でJN4クラスのシリーズチャンピオンを獲得した。



JN3 / 14.15.16. 天野智之／井上裕紀子組は今回も2番手に2分の大差をつけて圧勝。17.岡田孝一／多比羅二三男組もLEG1の3位を守ってゴールした。18.大倉聡／豊田耕司組は2位キープでフィニッシュ。2019年は新たなクラスに戦いの場を移す。



JN2 / 19.20. 前戦はミスで勝機を逃した鈴木尚／鈴木裕組が今回はライバルを寄せつせず、リベンジを達成した。21.鎌野賢志／蔭山恵組はLEG1の遅れが響き、3位にとどまった。22.シリーズリーダーで臨んだ長崎雅志／秋田典昭組が2位入賞で見事に全日本参戦初年度でのJN2クラスのシリーズチャンピオンを獲得した。



JN1 / 23.24. LEG1からラリーをリードした伊藤隆晃／大高徹也組がシーズン初優勝。「雁峰で負けても鬼久保で稼ぐ作戦でしたが雁峰でベストが取れたのは自分でもビックリです(笑)。ノートの特性を考えると厳しいラリーでしたが、クルマの完成度が上がって低速でも速く走れるようになったのが勝因ですね」25.チャンピオン確定済みの古川寛／廣田幸子組は3位でフィニッシュ。26. LEG2で逆転を期した小川剛／佐々木裕一組だったが逆に水を開けられ、2位にとどまる。



ドマスターズでも火花を散らした明治慎太郎 86 vs 鈴木尚BRZのマッチレースとなった。LEG1前半は互いにベストを奪い合う好バトルを見せるも、2ループ目はチャンプ獲得のためには優勝が絶対条件の明治／北田稔組が突き放し、11.8秒のリードで折り返す。

しかし翌LEG2、最初のSS9で明治組はブレーキ系のトラブルに見舞われてペースダウン。SS10を前にマシンを止めることに。期せずしてトップに浮上した鈴木／鈴木裕組がそのまま逃げ切って、シーズン2勝目を上げた。「昨日は、くらはりはまあまあだったけど、ほ

うらいせんは不甲斐なかった。特に2本めは、ちょっと疲れてしまいました。感触としては、今日このまま明治選手とやったら、負けてたかな。やっぱりこっちはチャンピオン懸かってないのでテンションが違う感じはしましたね。前戦のハイランドマスターズは自分が途中でやらかしたので、次こそは二人とも最後までしっかり走り切るバトルをやりたいですね」と鈴木選手は再戦を希望していた。  
注目のタイトル争いは、今季から全日本に参戦を開始した長崎雅志／秋田典昭組86の下へ



27. OP1クラスは圧巻の速さを見せた下口敏輝／小林一貴組が優勝。28. OP2クラスは萩原泰則／原口静枝組が優勝。

転がり込んだ。最終戦は鈴木組に大差の2位で終えたが、SS7鬼久保ではホットバトルを展開するトップ2台を尻目にベストを奪うなど、成長の跡を伺わせた。86/BRZ対象の2クラスがひとつに統合される2019年の全日本では現行のJN4クラスのドライバー達の参戦も予想されるだけに、「86/BRZ日本一決定戦」にどこまで食い込めるか、注目の一台になりそうだ。